

## 2017 トリノ宣言－高等教育交流支援機関による共同声明

私たちはどのような世界に住みたいと願っているのだろうか？この惑星に共に住むあまたの民族といかに認め合い、どのように折り合いをつけるべきなのだろうか？気候変動、食料安全保障、人口問題、パンデミック（世界的流行病）、気候要因によって誘発され強制される移住、所得や教育の不平等。私たちは、このような今世紀の地球規模の問題にどのように立ち向かうことができるのだろうか？これらの課題に応えるためには、世界各地の学者や研究者の協働が必要であり、それは、私たちそれぞれの国に生きる将来の世代と世界全体に希望をもたらすだろう。大学はこれら重要な課題に対応しようとしている一方で、既存のグローバルな研究協働や学生・研究者の移動および大学間ネットワークの発展を遅らせ頓挫させるような、国境を跨ぐ高等教育の利用や投資についての意思決定がなされようとしている。

歴史を通して、世界中の文明は、早い段階から国家間の学術交流の振興と促進を高く価値づけしていた。シルクロードから偉大なるアレクサンドリア図書館や「バイト・アル・ヒクマ」（バグダードの「知恵の館」）まで、アテネからペルシャを経てヨーロッパ中世の修道院まで、学者や研究者は、科学や文化の発展に寄与する知識を共有し、進歩させ、相互理解と尊重の礎をもたらす文化大使としての役割を担ってきた。世界の技術と交易と平和の進展は、人間と思想の交流とグローバルネットワークの拡大にかかっており、それによってすべての人々の恩恵をもたらす知識が共有されるのである。

世界各地で戦禍や気候災害、あるいは政治的・民族的・宗教的弾圧によって、多くの流浪の民が生み出され、そのために地政学的緊張と懸念が高まっているが、政治的に誇張された言辞や民衆の不安は、学生や学者の自由な行き来を妨げる風潮を作り出し、世界中で高等教育や研究に必要な公共投資を危機にさらしている。いくつかの国々では、政治的攻撃によって直接的に、あるいは重要な研究課題の予算削減によって間接的に、研究の実施が阻まれ、学問の自由が脅かされている。これらの現象は、科学の進歩を大きく妨げるであろう。改革や文化の進歩の原動力である大学も同様である。

学術交流促進に携わる国家機関として、私たちは安全な学術環境での学生と学者の交流を維持、拡大させるために団結する。私たちは、あらゆるレベルの政治的リーダーたちが、より多くの世界の学生が教育の一部を他の国で受けることを可能にする方策や外国から来訪する学生に対してドアを開け続けておく方策を支援することを希望する。私たちは、紛争地域から逃れた避難民のニーズに対し、包括的で迅速な対応がなされることと、高等教育機関が学生や避難学者を受け入れるプログラムに参画することを要請する。かかる行動は、人命を保護し、学問を救済するのみに留まらず、支援国の教育現場を豊かにして私たちのより安全な将来を築くものである。

私たちの機関は日常業務及び国内外でのネットワークや協働及び連携関係において、これらのことに取り組んでいくことを誓約する。

以下 G7 国際高等教育機構により署名

英国	ブリティッシュ・カウンシル
ドイツ	ドイツ学術交流会 (DAAD)
フランス	キャンパスフランス
アメリカ	国際教育機構 (IIE)
日本	独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)
イタリア	Uni-Italia

(同席機関)

オランダ	Nuffic
スペイン	SEPIE
フィンランド	Edufi
リトアニア	教育交流支援基金